

第37回 国立市健康危機管理対策本部会議記録

日時	令和4年9月6日（火）13時30分から14時20分
場所	市役所2階 市長公室
出席者	永見市長、竹内副市長、雨宮教育長、宮崎政策経営部長、藤崎行政管理部長、松葉子ども家庭部長、馬橋子ども家庭部参事、大川健康福祉部長、葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長、黒澤生活環境部長(健康福祉部参事)、中島基盤整備担当部長、橋本教育部長、内藤議会事務局長、林会計管理者 玉江選挙管理委員会事務局長、佐伯オンブズマン事務局長、菅野監査委員事務局長
付議事項	<p>(1) 都内・市内の状況について</p> <p>①東京都の状況（資料No.1～7）</p> <p>②市内の状況</p> <p>(2) 自宅療養支援室の対応について</p> <p>(3) 市の対応</p> <p>①国立市医師会長春日井先生のコメント</p> <p>②治療薬について</p> <p>③感染後のフォローについて</p> <p>④インフルエンザとコロナの同時流行、感染について</p> <p>⑤ワクチン接種について</p> <p>(4) その他</p> <p>①消防機関からの情報</p> <p>②出水期の自宅療養者の避難について</p>
主な内容	<p>(進行：大川健康福祉部長)</p>
1 議 題	<p>(1) 都内・市内の状況について（大川健康福祉部長）</p> <p>①都内の状況(資料No.1～7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値は前回と比較すると、下降傾向であるが、「大規模な感染拡大が継続している」と分析されている。 <p>②市内の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の感染者数は3,333人で、8月の保健センターへの相談件数も1,000件を超えた。 <p>(2) 自宅療養支援室の対応について（葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月に入り、徐々に相談件数、置き配の件数が減少し、10件/日程度で、委託でほぼ対応できている。 ・パルスオキシメーターの回収も問題なくできている。 <p>(3) 市の対策について（大川健康福祉部長）</p> <p>①国立市医師会春日井会長のコメント（高木保健センター係長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療薬については、重症化が予見されている場合には、処方を検討している。 <p>②治療薬について（大川健康福祉部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族全員陽性、単身世帯での陽性で処方薬をとりに行けないなどの場合には、薬剤師会で届けている例もある。 <p>③感染後のフォローについて（葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者においては、療養後の嚥下機能などの低下が心配されるため、自宅療養支援室など関係部署等でフォローしている。 <p>④インフルエンザとコロナの同時流行、感染について（葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月以降、インフルエンザ、新型コロナの流行期が同時期になってしまった場合の外来機能の低下に、今の時期に対策を立てておく必要がある。 <p>⑤ワクチン接種について（黒澤生活環境部長(健康福祉部参事)）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接種できるタイミングで接種できるワクチンの接種、3回目の接種の対象の拡大（5～11歳）、6か月～4歳の接種、オミクロン株対応ワクチン等について市民にわかりやすく周知していく。

(4) その他

①消防からの情報（松平防災安全課長）

・9月に入り、落ち着きつつあるが、第7波中には、選定困難事案が発生し、これからも安心できない状況である。
早めの医療機関受診と救急相談センター（#7119）の活用の広報してもらいたい。

②出水期における自宅療養者の避難について（松平防災安全課長）

・集会所等での隔離、学校校舎でのゾーニングにより対応することとなり、療養者の輸送等も検討課題である。実動訓練が実施できていないことも含め、療養者数等からシミュレーションしていく。

2 本部長指示及び対応方針について

インフルエンザ、第8波、台風など様々な状況をシミュレーションしながら、各部署において、対応策等を考えてほしい。

以上